

協議会で頂いた主なご意見

第1回協議会では、ETC2.0ビッグデータの分析結果、事故発生状況、地区の交通状況を報告し、事務局より提案した対策案について、ご意見をいただきました。

いただいたご意見を踏まえて、今後近隣住民のみならずと調整を図りながら対策を進めてまいります。

<協議会の様子>



【協議会意見】

- ・大岡小学校のグラウンド横の道路は通過車両が多く、**速い速度で走行している。**
- ・中島町公園横の交差点は、**急ブレーキをかけている危険な様子**を見かける。
- ・中島町公園の出入り口のところにハンプ+ポストコーンが設置されることで、**子供の飛び出しなども解消される**のではないかと。
- ・生活に影響があるので、近隣住民の意見をきちんと聞いたうえで対応してほしい。

【まとめ】

事務局が提示した対策案で基本的には了承いただきました。なお、近隣住民に周知のうえ、事業を進めるよう要望がありました。

今後の予定

今後、車の速度抑制に向けた安全対策の検討を進め、工事を行うとともに、効果検証のための調査も予定しています。

実施時期(予定)	実施内容	
7月20日：開催済み	第1回 協議会	地区の課題の共有、事務局案に対する意見交換
9月以降 (年度内に対策が完了できるように進めていきます)	近隣住民周知	協議会ニュース発行、回覧
	第2回 協議会	対策案の検討、効果測定の調査概要
	効果測定	ビデオ調査 効果測定のための事前調査
	対策実施	ハンプや狭さくの設置工事を行います
	効果測定	実施された対策について、皆様のご意見を聞くためのアンケート調査 ビデオ調査 効果測定のための事後調査
	第3回 協議会	効果測定結果の報告

※新型コロナウイルスの状況をみながら、今後の協議会の開催方法や時期などについて検討していきます。
情報提供のため、ニュースを発行し、今後も協議会の開催結果などをお伝えしていきます。

問合せ先・発行元

横浜市道路局施設課

電話：045-671-2785



横浜市道路局施設課

南区大岡小学校周辺地区 交通安全対策協議会ニュース

大岡小学校周辺で交通安全対策の検討を始めます！

横浜市では交通事故抑制に向けて、警察と協力し、交通安全対策に取り組んでいます。

しかし、南区大岡小学校周辺地区（大橋町2、3丁目、中島町3、4丁目、通町3、4丁目の一部）では、これまでも交通安全対策（規制を含む）を行ってきたにも関わらず、依然として事故が多く発生しており、また車の走行速度が高いといった課題がみられます。

そこで、このような課題に対して、町内会、小学校、警察などに参加していただき、今後の交通安全対策を検討する「南区大岡小学校周辺地区交通安全対策協議会」を立ち上げました。

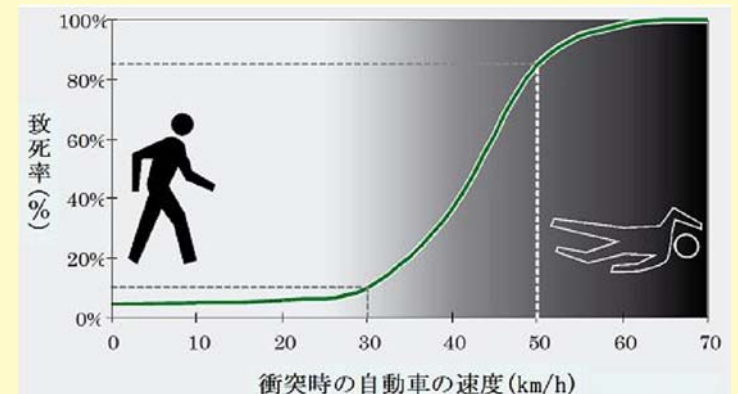
今回、7月20日に第1回協議会を開催し、現況の課題を共有し、今後の対策方針等について意見交換を行いました。なお、車の走行速度の確認については、今回、ETC2.0ビッグデータを活用しました（国土交通省横浜国道事務所提供）。

コラム～車の走行速度と死亡事故の関連性～

死亡事故を減らすためには、車の走行速度を抑制させることが重要です。

右図の調査結果が示すように走行速度が30km/hを超えると死亡事故に至る確率が増加します。

住宅街を40km/h～50km/hで走行する車も多く、生活道路では車の速度を抑制することが大変重要です。



出典：速度マネジメント報告書（世界保健機関）

協議会のメンバー

- ・本大岡連合町内会
- ・大橋町町内会
- ・中島町3・4丁目町内会
- ・通町三・四丁目町内会
- ・大岡小学校
- ・南警察署
- ・南土木事務所
- ・国土交通省横浜国道事務所
- ・学識経験者
- ・埼玉大学 久保田 尚教授*
- *交通工学研究会
生活道路に関する小委員会 委員長

<事務局>

- ・横浜市道路局施設課

事故データについて

右の図は、平成27年から平成30年の交通事故の発生件数と発生箇所を表しています。

事故データは、イタルダ生活道路事故データ（国土交通省提供）より届出のあった人身事故を抽出しています。

*イタルダ生活道路事故データとは交通事故総合分析センター（イタルダ）にて、交通事故の防止と被害軽減のため総合的な調査分析を行ったデータ

ETC2.0ビッグデータとは？

ETC2.0ビッグデータは、国土交通省が整備を進めているデータで、速度や急ブレーキ、走行経路を記録する機能があります。集められたETC2.0データを分析することにより、速度超過を特定することができ、事故が発生する前に対策実施し、事故の未然防止に役立つことが期待されています。

地区の交通状況・事故発生状況



※ETC2.0分析（国土交通省提供）を加工し、横浜市が作成

【交通状況】

大岡小学校のグラウンド横の道路及び中島町公園と横浜銀行を通る道路が、30km/hを超え、車の走行速度が高いことが分かりました。

【事故発生状況】

車の走行速度が高いところの交差点で特に交通事故が発生していることが分かりました。

【対策方針】

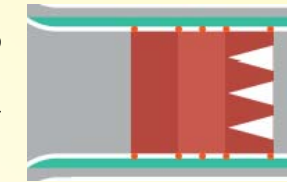
車の走行速度が高く、事故が多発している箇所を対策検討エリアとします。

今回、車の走行速度と事故の関連性が確認できたので、速度抑制対策を中心に検討します。速度抑制対策の内容については、速度抑制効果が高いといわれるハンプ、狭さを検討していきます。

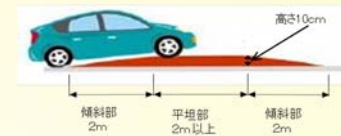
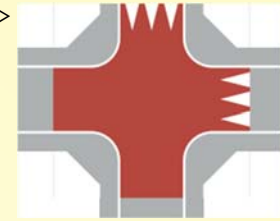
速度抑制対策について

<ハンプ>

道路に設けられた台形状の赤い凸部を設置することにより、車の速度を低下させます。

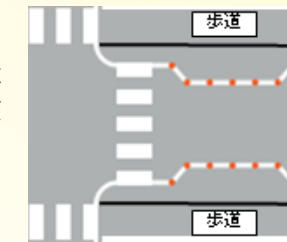


<交差点ハンプ>
交差点に凸部を設けることで、車の速度を低下させます。



<狭さく>

道路を狭くするものを設置することにより、車の速度を低下させます。



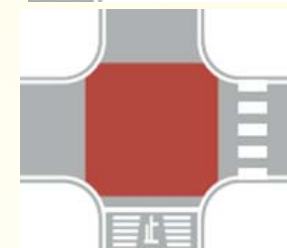
<「止まれ」の強調表示>

止まれの路面標示を強調することで、注意喚起を行い規制があることをわかりやすくします。



<交差点カラー舗装>

交差点があることを明示することで、ドライバーに注意喚起を促します。



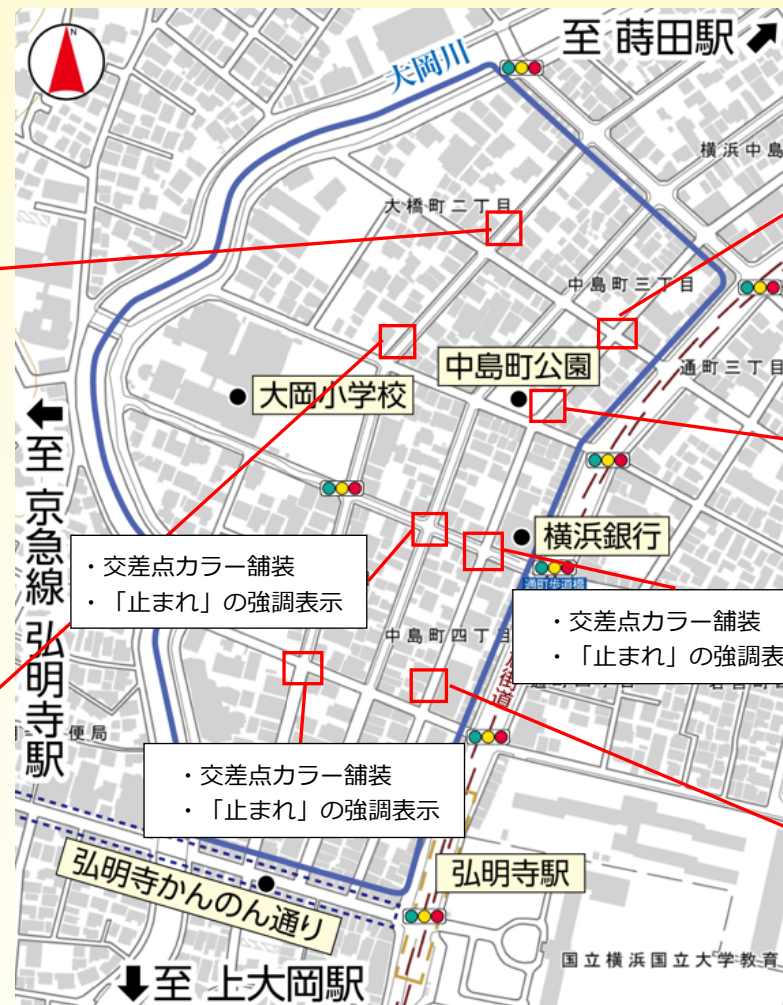
下記の対策案を事務局から提案し、協議会で議論を行いました

○速度抑制を行うための対策イメージ

狭さく（設置イメージ）



狭さく（設置イメージ）



交差点ハンプ（設置イメージ）



ハンプ（設置イメージ）



狭さく（設置イメージ）



提供：国土交通省

85%マイル速度とは？

85%マイル速度とは、「規制速度を設定するための指標」と位置付けられており、区間を走行する車の速度を低い順から並べた場合に全体の85%が含まれる速度です。

ゾーン30について

生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、区域（ゾーン）を定めて最高速度30km/hの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における速度抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制等を図る生活道路対策です。